
亡国の解放軍

霧夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

亡国の解放軍

【Nコード】

N1906BA

【作者名】

霧夜

【あらすじ】

ある世界に四つの国があった。その一国である、『クラリニア帝国』が『キタリア公国』に戦線布告。しばらくして、『クラリニア帝国』が主人公である魔術師ライト・ハーデンス、シリカ・ハーデンスが住む『ガーランド王国』にまで戦火が広がる。『クラレリア帝国』を国内に導いた、協力者とは？亡国となった『ガーランド王国』の運命は？

プロローグ（前書き）

こついう小説も書いてみたくて書きました。後悔はしているが、反省はしていない。

たくさんの方々に見ていただけると嬉しいです。

プロローグ

とある世界に四つの国が存在していた。一つは、『クラリニア帝国』強大な戦力を誇る大帝帝国である。二つ目は、『キタリア公国』軍国主義を掲げ二番目に戦力が多い国家である。三つ目は、『フタレリア共和国』政策に「自由主義」を掲げている国であり、四つの国の中で一番技術力が高い。そして、最後に『ガーランド王国』戦力も一番小さい国だが、国内に二人だけの魔術師が存在する国である。この物語は、その二人の魔術師から始まります。

「はあゝ．．．。」

しょっぱなからため息をついているのはライト・ハーベントである。

「兄様．．．。また、何か見えたのですね．．．。」

そのように声をかけたのは、ライト・ハーデンスの妹であるシリカ・ハーデンスである。シリカの言う『見えた』というのは、未来のことである。この兄妹には、特殊な能力が備わっていた。兄は、未来を見て予言し、禁忌きんぎとされる魔法を覚えることができるのである。妹の方には、精霊魔法を使う力が備わっている。また、その影響なのか兄の眼は、右目が黒く、左目が紅い。妹は、右目が青く、左目が赤色である。

「ああ．．．だが今回は、物凄く最悪な未来が見えた。」

「．．．最悪？」

「ああ、近いうちに戦が起きるだろう．．．。それも、この世界すべてを巻き込んだな．．．。」

「！？．．．そんな未来が．．．。」

「ああ、すぐに王に知らせなければ．．．。」

「．．．はい。」

シリカは、その一言で答えるとすぐさま呪文を唱え始めた。

「風に宿りし、精霊よ。その風の力を持って、我が足にやどえ。」

すると、シリカの足元も緑色の風が吹き抜け、シリカの足に、緑色の小さな竜巻が宿った。そして、エリカの周りを手のひらサイズの緑色の精霊がくるくる飛び回っている。

《あら。久しぶり！エリカ。どこかお出かけ？》

「・・・久しぶり。エアー。ええ、ちよつと王様のところにね。

あ、兄様にもお願いね。」

《あ、ええ、分かったわ。気を付けてね。》

「・・・ありがとう。」

シリカの読んでいる『エアー』とは、風の中に宿る精霊の名前である。もちろん名前は、シリカが名づけた。

・・・数分後・・・

ライトと、シリカは空を飛んでいた。もちろん、この世界で空を飛べるのは騎竜兵きりゆうへいと呼ばれる飛竜を操り戦う兵士や、『フタレリア共和国』の持つ『飛行機械』と呼ばれる物と、ライト、シリカくらいである。そのため、二人が空を飛んでいるととても目立つ。

「おい！あれ！！」

「あ！？・・・おお！ライト様にシリカ様じゃないか！」

なぜ、二人が様付で呼ばれているかというと魔術師は、この世界に二人しかおらずそして、予言でこの国や、人を守り、けがや病気の人を料金なしで治療してくれるからである。そう、この国の二人はこの国の国民からすれば神と、女神のような存在であった。

「おい！国王の城に向かつてるぞ！！」

「なんだって！！国王がお倒れになられたのか！？」

「それか、この国に何かおきるのは・・・。」

この国の国民は、国王への忠誠心が高かった。なぜなら、自分たちの国を豊かにし、さらに、平和に保ってくれているからである。

その噂は、国中に伝わり二人が城につきしばらくすると、城の中庭が国民で埋め尽くされたのは、完全な余談である。

ブローグ（後書き）

誤字、脱字などありましたら気軽にコメントください。

主人公解説（前書き）

今回説明です。

主人公解説

主人公

？

名前：ライト・ハーデンス

身長：165cm

体重：42kg

年齢：18歳

容姿：右目が黒で、左目が紅い。目の色を除けば普通と変わらない少年。

服装：黒いローブに、黒いブカブカなズボンをはいている。

好きな物：辛い物、黒い物、未来予言、冗談を言うこと、話すること

嫌いな物：苦い物、恐ろしい未来

好きなタイプ：優しい人

嫌いなタイプ：人の命をどうとも思わない人

一人称：俺

妹の呼び方：シリカ

解説：冗談が好きだが、やばい時には冗談は言わない。妹思いの兄。5歳の頃に親を亡くして以来、兄妹で生活してきたために兄妹の間の絆は固い。水晶玉を使い、未来を見て予言することができる。しかし、幼いこともあってか見える未来は、三年先までである。それ以上先は、力不足により見えない。禁忌の魔法を使うこともできる。禁忌の呪文とは、主に『不老不死』、『人体蘇生』等、自然の摂理を乱すようなことである。妹を「シリカ」と呼ぶため、初めて会う人からは、恋人と間違われることがある。人と話するのが好きで、よく世間話をしているところが目撃される。

？

名前：シリカ・ハーデンス

身長：135cm

体重：・・・秘密です／／

年齢：16歳

容姿：右目が青、左目が紅い。目の色を除けば普通と変わらない少女。

服装：白いローブに、インデッ。スが頭にかぶっているあれ。ミニスカートをはいている。

好きな物：甘い物、人の傷を癒すこと、動物と戯れること、花を觀賞すること

嫌いな物：苦い物、人が傷つくこと

好きなタイプ：兄のような人（優しい人）

嫌いなタイプ：自己中の人、人の命をどうとも思わない人

一人称：私

兄の呼び方：兄様
あにさま

解説：年齢の割にはおとなしく、人と話すところを目撃されることはほとんどない。元から、無口で人見知りが激しい。兄思いの妹である。無口だが、人が傷つくことを嫌い傷ついている人を放つてはおけない性格である。精霊魔法を使うことができる。精霊魔法とは、主に『人体回復』等もあるが、自然界のいろいろな物に宿る精霊の力を借りて使われる魔法を指す。動物と戯れるのが好きで、よくいつもの暗い表情からは予想できないほどの笑顔で戯れているのが目撃される。この笑顔は、兄と動物にしか見せたことがないという。また、おとなしい性格からは予想できないが、意外と格闘ができる特に蹴り技が得意でその足から繰り出される『ローキック』を喰らった者は、鼻血が必ず出るという。しかし、兄は「あまりやらないほうがいい。」と言い聞かせている。なぜなら、ミニスカートの下に短パンなどを履いておらず、キックを繰り出すと、90°の角度で繰り出すため、丸見えなのである。あえて、何とは言わないが・

・。また、年齢からか胸と、身長にコンプレックスを抱いており、自分と同じ年齢で身長が自分より高く、胸が貧乳でないと必ずor zの形になって落ち込むという。

主人公解説（後書き）

イン。ックスのあれなんていうんだろう？
WWW

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1906ba/>

亡国の解放軍

2012年1月4日22時53分発行